



(有)木の香の家

代表 白鳥 顕志

東北大学建築学科卒。一級建築士・福祉住環境コーディネーター(2級)。平成10年、高断熱住宅技術講習会の技術担当として東北各地をまわり、プロ向けの断熱技術講習会講師としても活動。平成13年に個人事業として「木の香の家」を設立しました。平成15年に法人化した後も、ひたすら省エネルギー住宅・低燃費住宅を目指し探究し続けています。

北上事務所
北上市本通り2丁目3 44みゆきビル1階
TEL.0197-65-7439
盛岡事務所
紫波郡矢巾町流通センター内
TEL.019-637-10781
<http://www.mokusei-kukan.com>

「昭和の性能」「ほどほど性能」「高性能」「超究極性能」皆さんはどのあたりを指して家づくりしますか。言葉の定義がありませんので、あくまでイメージ論です。不正解はありません。

真冬に暖房を止めて就寝…
翌朝の室温

5℃時代↓13℃時代↓
17℃時代↓20℃時代
(就寝前22℃くらいが条件)

私が住宅業界に入って、約30年になります。30年で随分と家づくりは進化したなあ…と、振り返ってみますと驚かされます。

わずか30年前は、ファンヒーターや放射式ストーブを各部屋に置いて暖を取り、「リビング」は温かいが「廊下」や「脱衣室」「トイレ」は寒い…が普通でした。真冬の朝には、外気温に近い室温一桁(約5℃)というのが当たり前で、なんら疑問を持たないのが世の中の常識でした。

そのころから徐々に、きちんとした断熱施工が確立されてきて、

「高断熱高気密」という名称が一般名称として普及し始めました。全室暖房ができるようになり、今から25年前くらい前に、真冬に暖房を止めても翌朝の室温は約13℃をキープする…ということを感じて感動すら覚えました。

そこからさらに技術は進化した。今から10年前くらいには、真冬に暖房を止めても翌朝には16℃、17℃をキープ(就寝夜9時に約22℃の室温が条件)することができるようになりました。

そして、昨今では、真冬の朝に起きて室温20℃をキープ(就寝夜9時に約22℃の室温が条件)ということも可能になってきており、その歴史を振り返ってみると本当に驚きます。

なぜ、振り返ってみると…と

書いたのかといいますが、ここ数年、「当たり前」という感覚が定着してしまつて、驚かなくなつてしまつたためです。それだけ家づくりは進化してきたんですね。

家づくり「超性能アピール」の「良さ」と「弊害」

最近では、家づくりの情報がネットなどで簡単に得られるようになりました。そうしますと、家づくりの「性能」に関するキーワードはたくさんあふれています。「高断熱」「ZEH」「パッシブ」「UA値」「C値」「Q値」などなどです。当然、ユーザーの皆さんも高性能を求め、ハウスメーカーさんも性能の凄さをアピールします。

そんな中で、面白い小話をしま

しょう。

家づくりの中で最近ハウスメーカーさんがアピールするポイントには、「UA値(外皮平均熱還流率)」「C値(隙間総統面積)」になると思います。少し前ですと「Q値(熱損失係数)」でした。うか。(私は個人的にQ値が好きですが)。

3つ並べるだけで、家づくりが面倒くさくなりそうですね。もちろん、どちらの性能も良いことに越したことはありません。ただ、超究極を求めだしますと、家づくりの中で犠牲にする部分も出てくることを知っておく必要がごいいます。

家の性能値の究極を求めますと、よく出てくる話が「なるべくF I X窓を使います」「大型テラスサッシの引き違い窓は絶対にN Gです」「窓は小さく設計しましょう」「単純総2階が基本です」「真壁和室はダメです」など。たまに「1年中窓を開けないでください」ということもあります。

文字で書くより、随分と家づくりの制約があるなあ…と感じます。特に、引き違いサッシN Gはテラスやデッキなどに出たいお客様にとっては大きな検討事項になります。

ほかにも究極性能を実現するためのハウスメーカーさんなりの仕様制約は出てきますが、不思議な話が時々聞かれます。

それは、真冬に暖房を止めて、朝に室温何℃くらいあります

か?という質問の回答です。例のような仕様制約をしても、朝の室温は15℃くらいまで下がる家もよく耳にいたします。そこが私の頭の中にクエスチョンマークがつくところです。

ちなみに、木の香の家では、普通に引き違いサッシも大型テラスサッシも良しとしております。

真壁和室もO Kで、平屋もO Kです。それでも、真冬に暖房を止めて室温20℃くらいキープできていると、就寝夜9時の室温が約22℃という条件で、20℃キープとまでは言いませんが、今の家づくりではできれば朝に17℃はキープしておきたいですね。これは、意外に思われるかもしれませんが、大手ハウスメーカーさんより、地場の小さなビルダーさんのほうができることが多いのです。

岩手県ユーザーさんは
恵まれております。

勉強熱心な小さなビルダーさんがたくさんあります。このページでは書ききれませんが、もつと家づくりの深い話のネタはございます。テレビCMだけの情報ではなく、地元ビルダーさんを見て回ると、「目からうろこ」のお話が聞けるかもしれません。くり返しになりますが、「岩手のユーザーさんは恵まれております」。